

# にも通信

Vol. 10

令和5年度 第10号  
令和5年9月吉日

にも 精神障害の有無や程度にかかわらず、誰もが安心して自分らしく暮らせることが  
包括 できるよう、包括的なシステムを構築していく取り組み

発行：相模原市精神保健福祉課

おかげさまで「にも通信」も第10号となりました。ご協力ありがとうございます。  
「継続は力なり」少年野球のコーチから繰り返しかけられた言葉が今になって身に沁みます。

さて、今号では「にも包括」の軸と考えている『地域移行・地域定着』について、あらためて深めていきたいと思いま  
す。地域で暮らす、地域で暮らし続けるとは??? なかなか深いテーマの第1弾です。

## ～地域で暮らす、地域で暮らし続けるとは～

### 地域移行の背景

国の調査によれば、「精神療養病棟に入院する患者の約40%が、在宅サービスの支援体制が整えば退院可能」とされています。長期入院者の解消については、平成16年9月に提示された「精神保健医療福祉の改革ビジョン」の中で、「受入条件が整えば退院可能な者（約7万人）」の10年後の解消を図ることが盛り込まれました。

…が、地域移行はなかなか進まず。そこで、平成29年の「これからの精神保健医療福祉のあり方に関する検討会」では、精神障害者の一層の地域移行を地域において具体的な政策手段により実現させるため、「精神障害にも対応した地域包括ケアシステム」という新たな政策理念が明記されました。本市では、平成30年から地域移行・地域定着の推進を軸とした「精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築推進連絡会議（協議の場）」を設置しています。

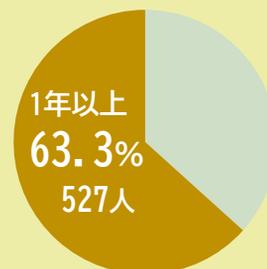
平成16年9月	精神保健医療福祉の改革ビジョン ～入院医療中心から地域生活中心へ～
平成21年9月	精神保健医療福祉の更なる改革に向けて ～地域を拠点とする共生社会の実現～
平成26年4月	良質かつ適切な精神障害者に対する医療の提供を確保するための指針 ・1年以上の長期入院者の地域移行推進 ・多職種による退院促進の推進
平成29年2月	これからの精神保健医療福祉のあり方に関する検討会 「精神障害にも対応した地域包括ケアシステム」
平成30年4月 ※相模原市	「精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築推進連絡会議（協議の場）」を設置

### 本市の状況

令和4年度の精神保健福祉資料（630調査）によれば、精神科病院に入院している相模原市民は832人いることが分かっています。その内、1年以上入院している方が527人おり、その数は年々増えています。長期入院を余儀なくされている理由は様々ですが、「居住・支援がないため」退院が困難となっています。

また、長期入院者の約6割が町田市や八王子市等隣接する市外の医療機関に入院していることも明らかとなっており、地域移行における市を跨いだ連携が必須となっています。

入院患者の在院機関



### 地域で暮らす、地域で暮らし続けること

ここまで、背景や現状について触れてきましたが、精神障害者を含めた、誰もが安心して住み慣れた地域で、充実した生活を送ることが当たり前にできるようにすることが必要だと考えています。地域で暮らすための地域移行、地域で暮らし続けるための地域定着…サービスを使えば解決するという単純なものではなく、身近な支援者となる地域住民の理解の促進や啓発も必要です。どのようなアクションが必要なのか、ぜひ一緒に考えていきましょう。

630調査：精神科病院、精神科診療所等及び訪問看護ステーションを利用する患者の実態を把握するために、毎年6月30日付で厚生労働省が実施

#### 1年以上の入院者数 ※R2年度

市内病院	市外病院
233人 (38.9%)	365人 (61.1%)
南区：162人	町田市：95人
緑区：71人	八王子市：55人



〇〇さんに聞いてみた、も第3回となりました。今回は表紙で説明した「地域移行」について取り組んでおられる、社会福祉法人らつくの坪内友美さんにお話を伺いました。

（早速ですが自己紹介をお願いします）

坪内 社会福祉法人らつくのらつく相談支援事業所の坪内友美です。相談支援の仕事をしています。

（もう少し掘り下げたいので、趣味や特技があればお聞かせください）

坪内 趣味は車いすツインバスケットボールとお囃子です。管もちよつとだけ吹けます。

（ありがとうございます。この記事を読んだ人の9割が管管について調べたと思います。さて、早速ですが「地域移行」について教えてください）

坪内 らつく相談支援事業所では、平成27年11月に地域移行支援事業の認定を受け、これまでに40件の地域移行の支援を行ってきました。

（一番長い入院期間の方は16年。平均入院期間は3年ほどになります。入院中からグループホームや通所先の見学、体験利用を行い退院となりますが、

退院はゴールではなく、新たな環境での生活スタートとなります。

（印象深いエピソードがあれば教えてください）

坪内 交通量の多い道を車を運転している時、車道の真ん中に人が立っていたんです。減速すると、地域移行で退院の支援をする方だったことが分かり、関係者に連絡し、横断歩道を渡るように伝えてほしいと連絡しました。よくよく話を聞くと、ただ「横断歩道が遠く面倒だった」ようでした。

また水中で水分量を気を付けるように言われていた方は、コーヒーは別と勘違いして退院後から多量のコーヒーを飲んでいたということも、入院中には目立たないことでも、退院し、地域での生活を開始すると、生活面での思いもよらないような課題が出現することが多々あります。

当然、相談支援だけの対応は不可能なので、グループホーム、通所先、訪問介護事業所、医療機関の方々など、さまざまな支援者の方と連携は欠かせません。

それぞれの支援者の連携のなか、退院したことで数年ぶりにパンを食べたという方や入院前はASMRができる前だったけれど退院後はしっかりと使いこなされている方、退院後始めたスポーツのクラブが全国大会出場となり、生まれて初めて飛行機に乗って試合に参加できた方、B型や就労移行への通所から就労に結び付き、グループホームを出てアパートでの一人暮らしを始められた方もいます。

入院中にはできなかった、地域ではあたりまえの生活、夢の実現など、それぞれの生活が展開されていく場面を目の当たりにすると、退院のお手伝いをさせていただくことができても本当によかったと思います。

今後、各支援者の方々と連携しながら、退院してよかったと思える生活のお手伝いをさせていただくことができればと思います。

（最後に、坪内さんが考える「地域で暮らし、暮らし続ける」こととは）

坪内 その人と、その人をとりまく環境それぞれで折り合いをつけたり、つけられなかったり、何かを選んだり、選ばなかったりしながら、その人なりに生活し、生きていくことかなと感じます。でも、それは病気があっても、なくても同じことかなあ、とも思います。

## お知らせ

社会福祉法人らつくのチャリティショップ「あみ」「くれあ」では、皆様にご寄付して下さる品々に支えられ、リサイクル&リユースで、近所の方々に喜ばれているお店です。定期的にセールもしています。

（ご不要な物をご寄付して下さると、「あみ」や「くれあ」で使えるコーヒー・紅茶・ウーロン茶無料券がもらえます。

皆様、ぜひ、遊びに来てくださるばと思えます。

▼チャリティショップ「あみ」「くれあ」



## 編集後記

今号では地域移行・地域定着について、主に背景や現状について取り上げました。紙面の都合上、大事な中身の部分には触れることができませんでしたが、9月には協議の場を開催いたします。協議の場では、市内の精神科医療機関による退院に向けた取組や地域移行における課題について御報告いただく予定です。病院の中での実践も気になるので、すので、にも通信でも報告できればと思います。

▶ すぱーす・あい様よりご紹介いただき、「アート展」を観に行きました。鮮やかな配色や様々な創作方法による作品ばかりでした。今回の開催も楽しみにしています☆



## 研修のお知らせ

精神障害者の地域移行・地域定着関係職員に対する研修『住まいの確保』について

今年度は「住まい」について取り上げ、当事者・支援者・貸主等、様々な立場の方から住まい探いや住まいにまつわるお話をさせていただく予定です。

日時：令和5年12月14日（木）午後  
会場：ウエルネスさがみはら周辺  
※詳細が決まり次第、後日お知らせ

令和5年度 依存症対策総合支援事業 支援者向け研修

テーマ：動機づけ面接を学ぼう～本人が自ら決意することをサポートし、必要な支援につなげよう～

日時：令和5年11月16日（木）午前9時20分～正午  
（1）動機づけ面接について  
相模ヶ丘病院 院長 澤山 透 先生  
（2）支援者をつなごう  
自助グループや依存症回復施設（相模原ダルク）の活動紹介  
会場：相模原市民会館

にも包括は支援機関の皆さまや地域の人たちとともに創り上げていくものです。事務局では、地域で取り組んでいる活動や耳より情報、好事例などを広く募集しています。電話でもメールでも構いません。ご意見・ご感想も含めてお待ちしております!!